

# Relief

[リリーフ]

2018  
JULY  
Vo1. 32

## CONTENTS

- 2018年度第1回いのちのセミナー
- 出前授業
- 2018年度公募助成活動紹介
- AED訓練器等助成活動紹介
- 上智大学グリーンケア研究所活動紹介
- 第6回いのちのリレー大会 開催決定！
- 今後の催し等のお知らせ



公益財団法人

JR-West Relief Foundation

JR西日本あんしん社会財団

# 2018年度 第1回いのちのセミナー

## ～ひとのいのち 私のいのち を考える～

2018年度いのちのセミナーは、「ひとのいのち 私のいのち を考える」をテーマに8回開催いたします。  
第1回いのちのセミナーを、5月20日(日)に松下IMPホールにて開催しましたので、その講演内容の一部をお届けします。



## あなたのいのちと 私のいのちを考える

～あなたと私は人であるから～

講師：大林 宣彦氏  
映画作家

### 余命宣告とガンとの同居

私は、おとしの8月24日から映画の撮影をする予定でしたが、その前日の打合せの2時間前に肺ガン第4ステージ、余命3カ月という宣告を受けました。それから、1年と10カ月が経ちます。今、私は同居人の「ガン君」とよく話をします。「おまえは宿っ子で、俺は宿主なんだ。おまえだって長生きしたいだろう。宿主の俺を大事にして、2人仲良く、あと何十年か生きよ

うじゃないの。」そして、ふと気がつきました。私たちの宿主はこの地球であり、私たちというガン細胞が地球をいじめ過ぎているんだと。私たちがガンと同じように少し利口になって、この地球という宿主に対して我慢をすれば、地球も長生きしてくれるし、私たちが長生きできると思います。

そういうことが分かってきて、「ああ、人間というのは理不尽な生き物で、自分の『いのち』ばかり大切に、他人の『いのち』を不幸にしている。」ということに気づきました。その後、私の生活は何も変わっていませんが、ガンを宣告された以降は、蚊が1匹止まっても「俺、ガンに罹って血がうまいかどうか分からないが、ご縁だから、よかったらたらふく飲んでいきなさい。」と言います。また、以前は道端の草なんて平気で踏んづけて歩いていましたが、今は道を歩いていると、草をよけて歩きます。つまり草の「いのち」も私の「いのち」も同じ「いのち」だということに、ガンになったおかげでようやく気がつきました。だから、地球に対しても、地球の上で一緒に暮らしている他の小さな弱い「いのち」に対しても優しい気持ちを感じるようになりました。ああ、ガンになってよかった。そんなふうに思っています。

### 敗戦と生き延びたものの責任

日本が戦争に負けた70年前は、「いのち」というものが本当に粗末にされた時代でした。私も子供心に立派な大日本帝国の兵隊になりお国のために死ぬぞと思って生きていました。大人の男の人たちも「おまえも大日本帝国の軍人になって立派に死ぬよ。」としか言ってくれません。それなのに、いざ戦争に負けたら、大人の男の人たちは開米担いで「平和じゃ。平和じゃ。」と言っている。これは何なのかと思いました。この大人たちと一緒に生きてると私たちの未来は真っ暗で何もないぞとしか思えませんでした。

戦争の中を生き延びてしまったものとして、日本で初めて平和をつくっていかねばならない責務を負ったわけです。しかし、どうやってつくっていくのか分からない。そこで、生きていることの責任として、私は時代に対して物を言う人間になろうと思いました。映画や演劇など、一人で4役も5役もやったのが私たちの世代です。

### 長岡の花火のフィロソフィー

「この空の花ー長岡花火物語」は、私がつくった長岡の花火の映画です。長岡の花火には、ほかの花火とはちょっと違うフィロソフィーというか、人間の「思い・哲学」がこもっています。昭和20年8月1日の夜10時30分、B-29が焼夷弾で長岡市を全滅させました。その同じ日、同じ時間に長岡では花火が打ち上がります。そうすると、空襲の記憶がしっかりある人は、花火の日は家に閉じこもって、目を閉じて、耳を塞いで、花火の音が聞こえないようにしています。

映画では、空襲時に背中の子供を背負ったまま亡くしたお婆さんの役を富司純子さんにしてもらいました。紙芝居で戦争中のことを子供たちに語っている場面がありますが、皆、真剣でいい顔で聞いている。というのは、亡くなった子供の記憶で花火でさえ見られないお婆さんが、子供たちに対し戦争について実際に話をしている姿を撮影したものを使っているからです。お婆さんはこう言いました。「私には忘れたいことがいっぱいあ

る。それは戦争です。私の背中で子供が死んでしまったことになってなかったことにしたい。けれども、もし私が誰にも伝えなかったら、次の世代の人たちがまた同じ悲しみを味わう。私は花火を見ることはできませんが、語り部となって、私が一番忘れたいことを、戦争を知らない子供たちにしっかり伝えることが、生き残った母親の義務・責任だと思うのでやっているんです。」

この方もちょうどその時、ガンで余命半年といわれていたのが、1年しっかりと生きられて、映画ができた後、試写をご覧になりました。「ああ、よかった。これで私は死ぬます。未来永遠にこの映画を子供たちに観てもらうことで、映画が私の遺言を代わりにやってくれることになりました。」と言いました。それがお会いした最後です。それからすぐ亡くされました。

爆弾はボンと音がして、下にいる人たちの家を焼き、「いのち」を奪いながら、経済効果を生みます。花火は打ち上げて、ボンと消えておしまいです。だから、世界はいまだに花火を打ち上げる人より爆弾を落とす人の方が多いわけで、これが戦争が終わらない一番の理由なのです。人間は両方できるが、是非の判断を越えて爆弾ではなく花火をつくる方の人間になってほしい。政治や経済ではなく、映画、表現にこそそれを動かす力があります。だから、映画は風化しないジャーナリスト、人は忘れても映画は忘れない、芸術は忘れないということ、私は語っているわけです。



### 大学で出前授業を実施しました

看護を学ぶ約70名の学生を対象に、子宮頸がんを経験した澁谷佳世さんを講師として、「いのちの種時き」をテーマに出前授業を実施しました。前半はワークショップを実施し、「伝える・つなげる・信頼する」を、体を使って学ぶことにより、学生同士で一体感が生まれました。後半は、講師によるがんの体験を中心とした講話が行われ、がんの宣告を受けるまでの人生や宣告を受けてからの葛藤、入院・手術、そして今もなお後遺症で苦しみ、闘病中であることが語られました。

今を生きていることの素晴らしさや、若者の未来へ向けた言葉など彼女のメッセージ性溢れる語りや感銘を受けていた学生も多く、「本人以上に辛さをわかってあげることができない。でも、わからないことは悪いことではない。わかりたいと思うからこそ、寄り添うことができる。」という講師の言葉は、机上で学んだ理論や概念は理解できていても、実際に患者さんとどう接したらよいかかわからず悩む学生たちに、大きな気づきを与えていました。一人ひとりの心が動かされ、共に学ぶ仲間や大切な人の存在、いのちの大切さに改めて気づくことができた有意義な授業となりました。



ワークショップ「人間椅子」の様子



講師の語りや真剣に聞き入る学生たちの様子

# 2018年度公募助成活動紹介

2018年度公募助成団体の活動(イベント)内容をご紹介します。  
熱い思いで皆様ご活躍されています。

## フレンズかわにし

4月7日(土) JR福知山線列車事故被災者支援チャリティイベント フレンズかわにし2018



福知山線列車事故を風化させないためのイベントとして、宝塚線沿線の川西市の商業施設内において音楽イベントが今年も開催されました。回数を重ね、地域のイベントとして根付いている様子がかがえました。会場では、バンドによる音楽の演奏、事故でお怪我をされた方へのインタビューやご本人による歌のほか、AEDの使用法の講習、ご被害者支援のための募金などが実施され、家族連れで参加する姿も多く見られました。会場では、ご被害者の団体が作成した事故に対する思いが書かれている葉が配布されるなど、「思いをつなげていきたい」という気持ちがこもったイベントになりました。



## グリーンサポート ラル大津

5月12日(土) 連続講座第1回「病から得たもの①〜がん〜」



全4回の連続講座の第1回目として、大津市内のラル大津事務所にて「がん」をテーマに実施されました。がんになった当事者が講師を務め、それぞれグリーンを抱える参加者に対して、生き方の変化や不安、どう立ち直ったかという話をされました。講師からは、自身ががんを告知されたときの気持ちの揺れ動きや「死」に対する考え方、娘を病で亡くして十数年後に自身ががんになり「娘と同じ土俵に立てた」と思ったという話など、涙ながらに語られ、皆真剣に聞き入っていました。講師の「病気によってできなくなったことを思うより、できることを前向きに考える」という言葉が印象的でした。



## 一般社団法人のあつく自然学校

7月4日(水) 楽しく!!安全に!!安心な活動のための水辺の安全セミナー



### 講義の中で伝えられた水辺の事故を防ぐための主なポイント

- 安全に関する手間や出費は惜しまない(例: ライフジャケットを自分で購入する)
- 大事故につながらない環境作り(危険と言われる場所には行かない、行かせない、常に子どもの見守りをするなど)
- 天候など不安がある時は、強行するのではなく、中止の決断を!

夏休みにむけて、川や海など子ども達と一緒に野外に出かける機会が多くなるシーズンです。しかしながら野外活動は、転落事故や水難事故など命にかかわる事故にあうという危険も伴います。今回のセミナーは、子ども達と楽しく野外活動をするため、「大人は何に気をつけて、どういった準備をすれば安全に活動できるのか」という具体的な事故例を交えた講演と、のあつく自然学校でおこなっているリスクマネジメントのお話でした。夜の開催にも係わらず60名ほどの参加者があり、関心の高さがうかがえました。講師の岡まゆみ氏は、水難事故でご主人を亡くされた(ジョギング中、川でおぼれていた子どもを助けようとして亡くなった)という辛い経験をしていらっしゃいます。それをふまえ、実際の事故の様を例にして「どうしたら水難事故は防げるのか」、思いを熱く語られました。また団体代表の高井氏は、野外活動主催者の立場から、保護者が安心して子どもを参加させることが出来るキャンプの選び方や、リスクを減らすために気をつけるべきポイントについて講義をされました。これから迎える夏休みを楽しく過ごすために、大人が安全意識をしっかりとっておかないといけないと強く感じました。



教えて!ドクター (https://oshiete-dr.net)より引用

# AED訓練器等助成活動紹介

2015年度から活動を開始した「AED訓練器等助成事業」は、2018年度で4年目を迎えました。初年度から活動されてきた11団体が昨年度末で3年間の助成対象期間を満了し、あらたに13団体がこの事業による救命処置の普及啓発活動を開始しました。各地で取り組む、皆さんの活動の様相をご紹介します。

## 12月22日(金) 特定非営利活動法人エンゼルネット



保育園の職員や園児の保護者、ボランティアの方を対象とした講習が実施されました。主に子どもたちに対する救命処置の方法について講義され、家庭内で発生しうる事象(喉に詰らせる・やけど)に対する処置方法が紹介されました。受講者は子どもの「いのち」を守るために真剣に取り組んでいました。

## 2月15日(木) 垂水マミーズ



幼児教室を運営する団体が主催した講習会で、小さな子どもをもつお母さんや子どもを見守るインストラクターが参加されていました。実技では乳児人形と小児人形を使用し、体格の違いによる処置の違いについても伝えられていました。丁寧な解説が行われ、受講者のみなさんも納得していました。

## 4月15日(日) 荒田地区防災福祉コミュニティ



地区の防災訓練の一環として救命講習が実施されました。今回は小児人形を使って子どもに対する救命処置の講習が行われ、地域の子とも大人と一緒に実技に取り組んでいる姿が印象的でした。紙芝居を使ってわかりやすく説明したり、学校のどこにAEDがあるかを質問したりと子どもたちにも興味を持てる内容でした。

## 4月15日(日) 防犯、防災および救護ボランティア チームTEC安?



マンションの住民を対象とした救命講習が実施されました。指導者が処置について一連の流れを講義・実演したあと、参加者が真剣に心肺蘇生に取り組んでいました。マンションに設置されているAEDの場所を確認するなど、もしもの時にマンション住民のみなさんがAEDを使えるよう実践的な講習会でした。

## 4月19日(木) Human Relations SHIN



普通救命講習のカリキュラムに則った3時間の講習会が実施されました。受講者全員のためにしっかりと実技の時間が取られ、初めて体験する受講者に対してもポイントがおさえられた内容でした。スライドを使った講義や地元の救急車の出動回数などの情報も紹介され、とても有意義な講習会でした。

## 4月29日(日・祝) 117KOBEBou-sai Master 育成会議



ライブイベント「カミングKOBEBE18」の会場に設けられた、被災地や震災について考えるテーマゾーン「減災ヴィレッジ」で救命講習が実施されました。防災に関するクイズや防災グッズ作りのワークショップも同時に行われ、来場者は防災と救命処置の両方を体験できることから好評を博していました。

# 上智大学グリーフケア研究所 活動紹介

当財団では「こころ」「いのち」の問題に取り組む団体の活動に助成しています。その一つに「上智大学グリーフケア研究所」があります。当財団は上智大学グリーフケア研究所が行っている「グリーフケア」の実践に携わる人材養成講座に対して助成しています。

## グリーフケア研究所について

グリーフケア研究所は、2005年4月25日にJR西日本が発生させた福知山線列車事故を契機に、事故のご遺族の方々をはじめ、大切な人を亡くした悲嘆者に対するグリーフケアの実践に役立つように、日本初のグリーフケア専門の教育研究機関として、2009年4月に聖トマス大学に設立されました。

2010年4月、上智大学に移管され、大阪サテライトキャンパス（大阪市北区）と四谷キャンパス（東京都千代田区）の2ヶ所で活動しています。

グリーフケア研究所では、グリーフケア、スピリチュアルケアにかかる研究や、ケアに携わる人材を養成するための「グリーフケア人材養成講座」を開講しているほか、グリーフケアに対する理解を深めていただくことを目的に公開講座「悲嘆について学ぶ」を開講しています。



大阪サテライトキャンパス

### 「グリーフケア」とは

病気、災害、事故などで大切な人やものを失った後に体験する心理的・身体的・社会的・スピリチュアルな反応を「悲嘆（グリーフ）」と呼びます。悲嘆を抱えた方々の悲しみや苦しみをともに受け止め支援していくことを「グリーフケア」といいます。

### 「スピリチュアルケア」とは

事故や災害、病気や老いなどをきっかけに、「どうして自分がこんな目にあうのか」、「自分は何か悪いことをしたのか」、「死んだら私はどうなるのか」など答えのない問いを自問自答し、自己喪失感、疎外感、空虚感といったスピリチュアルな痛み（スピリチュアルペイン）に苦しめられることがあります。そうした痛みを癒す働きを「スピリチュアルケア」といいます。

## グリーフケア人材養成講座について

グリーフケア人材養成講座は、グリーフケアの実践を遂行できる専門的な知識・援助技術を備えた人材の育成を行うための講座です。

「グリーフケア人材養成課程（2年制）」は、グリーフケア、スピリチュアルケアなどのケア提供者となることを目指す方が最初に受講する課程であり、グリーフケアの理論や宗教学などの講義、遺族会や患者会等への訪問実習などが行われます。

また、「グリーフケア人材養成課程」を修了した方を対象に、ケア提供者のリーダーの養成や、日本スピリチュアルケア学会が認定する「スピリチュアルケア師」の資格取得を目指す方のための、「資格認定課程（1年制）」や「専門課程（1年制）」もあります。

受講生は大半の方が社会人なので、授業は受講生の便宜を考慮して、水曜日の夜間と、隔週の土曜日に実施されています。受講修了後、医療や介護、社会福祉、教育など、実際に仕事で対人援助を行っている方は職務を通じてグリーフケアを実践されています。

また、既存の遺族会やボランティア団体で活動する方、新たにNPO法人等を設立して活動を行う方など、さまざまな形で活躍されています。

### 「グリーフケア人材養成課程」の一部科目紹介

- 「グリーフケア原論」  
グリーフケアとは何かについて全体像を学びます。
- 「宗教学」  
原始から現在に至るまでのさまざまな宗教の思想と歴史を学びます。
- 「グリーフケア援助講習」  
演習とグループワークをとおして、ケアの援助技術について実践的に学びます。
- 「臨床訪問実習」  
少人数のグループに分かれて遺族会や患者会等を訪問し、実際のグリーフケアの現場を体験します。



## 第4回 上智大学グリーフケア研究所（大阪） 実践・研究発表会の開催

2018年3月25日に大阪サテライトキャンパスにて、「グリーフケア人材養成講座」の修了生による実践・研究の発表会が開催され、9組の方々が発表を行いました。

修了生からは、それぞれの立場でグリーフケアやスピリチュアルケアの実践を通じたことや得られたこと、研究の成果などが発表されました。

医療の現場で実際に患者やその家族に対するケアを行っている修了生からは、具体的な対応の事例やその中で生まれた戸惑いや課題などが報告されました。また、遺族会を主宰している修了生からは、事故や事件の被害者遺族へのケアのあり方の考察について報告がありました。仕事やボランティア活動など、関わり方はさまざまですが、学んだことを活かしてグリーフを抱える方々を支援していきたいという思いは共通であり、一生懸命に取り組んで成果を発揮されている姿に感銘を受けました。



### 発表内容の例

- 「ゆるし」の視点から事故や事件の被害者遺族へのスピリチュアルケアのあり方を考察
- ペットと飼い主のグリーフとの関係性を考察
- 看護師の立場から、大切な人を亡くした患者が「悲しみとともに生きていくことを支える」ために出来ることを、実際の事例を振り返り報告
- 緩和ケア病棟で実施した患者やその家族に対する傾聴やアートセラピーなどがもたらす効果についての報告
- グリーフケアを提供するために団体を設立した修了生によるこれまでの活動状況の報告

## 第6回いのちのリレー大会 開催決定！

「いのちのリレー大会」は、これまで三都市（大阪・京都・神戸）で開催をしており、京都地区では3年ぶりの開催となります。“いのちのリレー大会”では、倒れている人を発見してから救急隊に引き継ぐまでの一連の救命処置を、3人1組のチームで協力して実演していただきます。出場者を募集していますので、奮ってご応募ください。

## 第6回いのちのリレー大会 出場者募集！

開催日時 **2018年11月3日（土・祝）**  
**13:00～16:00**

参加無料

会場 **京都駅ビル 駅前広場（京都劇場前）**

- 応募条件
- 近畿2府4県の小学校・中学校・高等学校・大学に在学中の児童・生徒・学生ならびに一般の方
  - 3人1組のチームであること

応募方法 参加申込書（当財団ホームページからダウンロードまたは募集案内リーフレットの裏面）に必要事項を記入のうえ、メール（info@jrw-relief-f.or.jp）またはFAX(06-6375-3229)でご応募ください。

応募締切 **2018年9月20日（木）必着**

※応募チーム多数の場合は抽選

出場が決定したチームには、事前に課題やポイントをお知らせします。

表彰 救命処置の的確さを競っていただき、上位チームは表彰のうえ、記念品を贈呈します。また、出場者全員に参加賞もご用意しています。



昨年度の決勝の様子



昨年度の表彰式の様子

## 2018年度公募助成イベント情報

2018年度公募助成先団体の活動予定をご紹介します。内容等の詳細は、各団体へ直接お問い合わせください。

### ポコズカフェ@大阪

[申込要(専用申込フォームから)、参加費1,500円]

流産死産・小さなお子様を亡くされた当事者のためのピアサポート交流会を開催します。

日 時: 8月5日(日) 11:00~14:30  
場 所: ピッコラ・ファミリア内(近鉄 新石切駅すぐ)  
問合せ: ポコズママの会 関西  
TEL: 072-986-9745  
MAIL: pocosmamaosaka@gmail.com  
専用フォーム: <https://kokucheese.com/event/index/527224/>

### 普通救命講習〜一次救命処置たし算プロジェクト〜

[申込要(電話又はメール)、参加費無料]

9日は乳児・小児一次救命処置の祖父母コースとして、お孫さんへの安全確保について行動や判断が出来るような講習を行います。15、24日は一次救命処置の基礎知識と実技を学びたい方向けの普通救命講習を開催します。

日 時: 9月9日(日) 9月15日(土) 9月24日(月・祝) すべて9:00~12:00  
場 所: 西大寺北地域ふれあい会館(近鉄 大和西大寺駅 徒歩3分)  
問合せ: B-NET@SAIDAIJI  
TEL: 090-7888-1147  
MAIL: Bnet55aed@yahoo.co.jp

### 地域で考える防災対策〜食物アレルギーを知る〜

[申込要(HPより先着順)、参加費無料]

食物アレルギーがある場合、避難所で危険に晒される恐れがあります。地域と一緒にあって皆にやさしい安心・安全に特化した防災対策について学びます。(11月に大阪でも開催予定)

日 時: 9月30日(日) 13:00~16:00  
場 所: 神戸市勤労会館(JR三ノ宮駅・阪神三宮駅 徒歩5分)  
問合せ: LFA食物アレルギーと共に生きる会  
MAIL: lfa2014moveon@gmail.com  
HP: <http://www.lfa2014.com>

### 第5回高槻市小学校救命ラリー

[申込要(電話)、参加費無料]

プロの医療従事者が過去の救急現場から体験した緊張感あふれる会場と模擬負傷者を設定し、救急・災害時に発生する可能性のあるシナリオ想定に対しチームを作り、模擬負傷者の救命処置にチャレンジする大会を開催します。

日 時: 10月27日(土) 13:00~16:30  
場 所: 高槻市内小学校(会場未定)  
問合せ: 大阪J いのちの授業  
TEL: 080-1492-0119  
MAIL: ynayk10718@gmail.com

## 2018年度いのちのセミナー ~ひとのいのち 私のいのち を考える~ 開催のお知らせ

2018年度いのちのセミナーは、以下のとおり開催を予定しております。募集は講演毎に行います。募集を行う際は、当財団ホームページや京阪神の駅等でお知らせいたします。奮ってご応募ください!

(敬称略)

2018年5月20日(日)

終了いたしました

講師: 大林 宣彦  
映画作家



2018年8月9日(木)

時間: 18時30分~20時00分  
会場: 毎日新聞オーバルホール

募集は終了しています

講師: 関谷 直人  
同志社大学神学部教授  
牧師



2018年8月22日(水)

時間: 13時30分~15時00分  
会場: 立命館大学大阪いばらきキャンパス

募集は終了しています

講師: 山崎 直子  
宇宙飛行士  
立命館大学客員教授



2018年9月21日(金)

時間: 18時30分~20時00分  
会場: 毎日新聞オーバルホール

講師: 垣添 忠生  
公益財団法人日本対がん協会会長  
国立がんセンター名誉総長



2018年10月11日(木)

時間: 18時30分~20時00分  
会場: 毎日新聞オーバルホール

講師: 佃 祐世  
弁護士  
自死遺族



2018年11月2日(金)

時間: 18時30分~20時00分  
会場: 毎日新聞オーバルホール

講師: 小笠原 望  
大野内科院長



2018年11月29日(木)

時間: 18時30分~20時00分  
会場: 毎日新聞オーバルホール

講師: 南 直哉  
福井県霊泉寺住職  
青森県息山菩提寺院代



2019年3月17日(日)

時間: 13時30分~14時40分  
会場: 松下IMPホール

講師: 浜村 淳  
パーソナリティ  
映画評論家



アンケート実施中

毎月、皆様からご好評いただいておりますReliefにつきまして、いつもご感想をお聞かせくださり、ありがとうございます!  
今号についてのご意見やご感想もお待ちしております。( <https://www.jrw-relief-f.or.jp/enquete/> )



#### 編集後記

今年度の「いのちのセミナー」がいよいよスタートし、多彩な顔ぶれの講師にご講演いただきます。ご参加いただく方や、このReliefをご覧いただいた皆さまが少しでも元気になれるよう、よりよいセミナーを開催して参ります。(ヒロ)

#### 広報誌「Relief」 2018年7月号(vol.32)

【表紙写真: 2018年度第1回いのちのセミナーでご講演された大林宣彦氏】

Relief(リリーフ)には「ほっとする、安堵。安心」といった意味があります。当財団は、「安全で安心できる社会」の実現を目指した事業に取り組んでいます。

編集発行/公益財団法人JR西日本あんしん社会財団 〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目4番24号  
TEL: 06-6375-3202 ホームページ: <https://www.jrw-relief-f.or.jp/>

